

会 議 録

1 会議名

令和8年度第1回安塚区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○報告事項（公開）

（1）令和8年度安塚区における主な事業について

○自主的審議事項（公開）

（1）自主的審議事項について

○その他（公開）

（1）次回開催日の決定

（2）市からの連絡事項（区内の行事予定ほか）

3 開催日時

令和8年4月21日（火）午後6時30分から午後7時43分まで

4 開催場所

安塚区総合事務所 301会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

- ・委員：秋山委員、池田（正）委員、岩崎委員、新保副会長、中村委員、松野委員、山岸委員、横尾委員、吉野会長
- ・事務局：安塚区総合事務所 今井所長、井部次長、野口市民生活・福祉グループ長兼教育・文化グループ長、地域振興班保高班長、本山会計年度任用職員 浦川原区総合事務所産業グループ 産業観光班谷川班長、農政班山本班長、同建設グループ 管理班山口班長

8 発言の内容（要旨）

【吉野会長】

- ・会議の開会を宣言

- ・池田（康）委員、和泉委員、滝沢委員の欠席を報告
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

本日の会議録は、内規により私に対応する。

それでは、議事に移る。

次第2：報告事項（1）「令和8年度安塚区における主な事業について」、事務局が説明する。

【井部次長、浦川原区産業グループ及び建設グループ職員】

（資料No.1により説明）

【吉野会長】

ただ今の説明に、質問はあるか。

（発言を求める委員なし。）

特になければ、私からお尋ねする。

17番の中山間地域等活性化事業について、昨年8千5百万円くらい予算がついていたようだが、本年度は1千2百万円ほど減っている。若干、面積が減っているが、そのせいか。

【浦川原区産業グループ山本班長】

令和7年度の要望に対する金額を予算化している。金額は少し下がったが、特に問題なく執行できると考えている。

【吉野会長】

地域独自の予算事業についてお尋ねする。

「安塚花のまちづくり推進事業」に関しては、補助金額が522万円となると、NPOさんの持ち出しもかなり大きくなるが、具体的にどのようなことをするのか。

それと、「キハダ活用研究事業」というのがあるが、今まで聞いたことがない事業であり、説明いただきたい。

【井部次長】

「安塚花のまちづくり推進事業」は、今まで都市整備課の事業で予算措置していて、NPOさんが各町内に花の苗を配って、沿線に植えてもらっていたのだが、それを市の事業として行わずに、NPOさんが地域独自の予算事業として新たに提案していただいた。新規の事業なので、自己負担額は3割となる。事業の内容は、今まで行って

いたものを継承する形となる。

「キハダ活用研究事業」は、以前、須川で「百草円」という薬を造っていたかと思うが、安塚町当時、その原料になるキハダの木を各地に植えていた。その木を活用した地域活性化の可能性を探るための研究、調査を始めたいとのことで、NPOさんから新規に提案された。

【吉野会長】

いつの話かは忘れたが、薬事法の改正がなされて、なかなか小さいところでは生産ができなくなっているが、キハダを原料として売るためにやろうということか。

【今井所長】

最終的には会長がおっしゃるところまで辿り着ければ良いと考えていらっしゃるようだが、今回はキハダの活用、研究ということで、植樹した場所が一か所ではないので、まずはどこに植えてあってどのような状態なのか、それが使える状態なのか、切って運び出せるのかなどを調査して、また、流通に乗るかどうかなども調べる予定である。その他、キハダを研究する活用研究会を立ち上げて調査、議論をしていく内容だ。

まずは研究ということで、たくさん植えてある安塚の財産をどうやって使っていくかということである。

【吉野会長】

別に先を急いでいる訳ではないが、研究倒れにならないようにお願いしたい。

もう一点、「やすづか学園30周年記念シンポジウム開催事業」は具体的にはどのような内容か。

【今井所長】

これから実行委員会を立ち上げて、詳細を詰めていくことになっている。事前に菱里地域支援委員会からいただいた提案によると、やすづか学園の取組実績や取組の重要性を広く皆さんから認識してもらうため、シンポジウムや講演会、パネルディスカッションのような形が想定されている。詳細については、支援委員会を核に実行委員会を組織して実施しようとして議論していると聞いている。現在、決まっているのは、シンポジウムと講演会がメインの取組になるということである。

【吉野会長】

基調講演があって、パネルディスカッションがあるということで、全国のフリース

クールに声掛けをして、参加を促すようなやり方が考えられているか。

【今井所長】

幅広く周知するという提案ではあるが、全国のフリースクールに声を掛けるところまでは決まっていない。詳細はこれから詰まってくると思っている。

【吉野会長】

他に質問等はあるか。

【池田（正）委員】

鳥獣対策で「イノシシが出没しにくい環境整備を住民に指導、助言する。」とあるが、これはどのような形で行われるのか。

【浦川原区産業グループ山本班長】

例えば、イノシシが多く出没して困っているような町内等においては、集落環境診断という取組がある。これは上越市鳥獣被害防止対策協議会の構成員の方が出向いて、現地の被害の状況などを確認した上で、ワークショップを開いて具体的に電気柵の設置位置の検討などを考えていくような取組である。ご希望があれば、お声掛けをいただきたい。

【池田（正）委員】

今、安塚区内で銃を所持している方は和泉委員のほかに1名しかいない。銃の資格を取るための助成もされているが、なかなか銃を所持する方がいない。何とか銃を所持する方を増やしていただきたい。

【浦川原区産業グループ山本班長】

猟をされている方には、大島の菖蒲と田麦に猟銃が相当うまい方がいらっしゃって、1シーズンに40から50頭くらい獲っておられる。1頭当たり1万5千円の市からの支援費もあり、収入にもなっている。そのような方の仲間などからうまく増えてもらいたいと思っている。銃猟免許や猟銃所持の支援もあるが、今後もいろいろと考えていきたい。

【吉野会長】

他に質問等はあるか。

(特になし)

無いようなので、「(1) 令和8年度安塚区に係る主な事業について」の説明は終了する。これで浦川原区総合事務所の説明職員は退席される。

次に、次第3：自主的審議事項についてに進める。

前回の地域協議会では和泉委員から、第5期委員から引き継いだ『安塚区における「地域活性化の方向性」』のうち、テーマとなる《安塚区の地域活性化に向けて》の内容は現在のままで良いが、その下に位置する《構成要素》の内容は見直しが必要ではないかと意見が出された。

今月もこれから、和泉委員の意見を踏まえたうえで、今後の安塚区地域協議会が検討すべき自主的審議の内容について、皆さんから議論をしていただきたい。

なにかご意見があれば提案願いたい。

【中村委員】

個別の構成要素については、何か追加すべきものがあるかどうか、議論すれば良いと思う。私は一番下の「地域のリーダーや次世代を担う人材の育成」がかなり重要ではないかと思っている。個別のことを活性化の目標にするのはもちろん大事だが、人が残っていないと話が始まらないというか、何かやることが決まっても実施する人がいないと何もできない訳で、地域のリーダーや次世代を担う人材の育成をどうするかということの重要度を高めたほうが良いと思う。

【吉野会長】

他に何かあるか。松野委員、どうか。

【松野委員】

人口流出が一番の問題である。何で人口流出が進んでいくのか、そこが掴めれば当然、人が残ってくる訳だから、いろいろなことができるようになるだろう。人口流出の本当の根っこを押さえないと、次に進んでいかない気がする。

【池田（正）委員】

私の町内会では、昨年度で町内会を解散するという話が出た。総合事務所などと相談して1年くらいかけて検討することとなり、町内会長ももう1年だけ、何とか引き受けてもらうことになった。

1年後にどうしたら良いのか。地域のリーダーや次世代を担う人材といっても、私たちの集落などではリーダーになる人がいない。そのような状況の中で、どのようにして担い手を育成するのか。非常に頭が痛い。

他の町内会では、順番に町内会長や役員を担う人がいるから続くのだと思う。良い知恵があれば貸してほしいくらいだ。

【秋山委員】

池田（正）委員のおっしゃるとおり、今年、小学校に入学した1年生が3人で、そのうちの1人が他の地域からの転入だ。子どもがいないということは、若い人もいないということだ。

私の地域でも半数以上が60歳以上で、共同作業の道普請でも、途中から二手に分かれるところがあり、以前は若い人と高齢者に分かれていたのだが、今では若いほうに回る人もほぼ60歳以上という状況である。今の60歳代は昔に比べて元気ではあるが、年を追うごとに年齢が上がって逆ピラミッドになっていて、逆ピラミッドの上部が亡くなって三角形がどんどん小さくなっている。どうしたら良いか。良いアイデアは出てこない。何かやれば良いといってもマンパワーが足りない。

愚痴になるが、時既に遅しのところがあって、全国的に人口が都市部に流出して、地方はどんどん過疎化が進んでいる。池田（正）委員ではないが、どうしたら良いか。

【岩崎委員】

前回のアンケートを見直してみた。比較的、自然などに関しては共感を得ているものが多いが、マイナスイメージは雪である。自然を生かしても雪の中にいたくないというのが本音である。

総合的に考えると、日本の人口がピークを越えたみたいであり、このように奥の地域からは人がどんどん減っていき、行政としてもやっていけなくなるのではないかと思う。

昔、みんな一斉にどこかに集めて、コミュニティをつくれば良いなどという理想論を聞いたことがあったが、なかなかそれもできない。私には具体的な方法は浮かばない。ただ、安塚区の皆さんはリバーサイドの花とか自然を大事にしている。桜の下の花壇も今、どのようになっているか分からないが、そこをどうにかできれば良いと思うものの、何かを上越市に要望してどうにかするというのは、私には思い浮かばない。

【横尾委員】

私が住んでいる団地の人からは、このような話に興味を持っている様子を全く感じられない。一緒に住んでいても隣近所との付き合いもほとんどない。実家の町内は8軒くらいで高齢者ばかりなので、集落として何年もつかという状況である。これを皆さんにどう興味を持たせたらいいのかと言われたら、私も正直、答えを出せない。

本当にネックになっているのは雪である。雪を使って何かしようと思っても、何を

したら良いのか。このようなことに興味を持つ若い人がいない感じである。私は、地域協議会に参加させていただいているので多少は考えるが、ここに書いてあることに対して何をすればいいのか、考えたところでマンパワーが足りるのかということが、今の私の考えである。

【山岸委員】

私の住んでいる地域も60歳代以上の方がほとんどで、若い人がいない。リーダーを育てると言われてもそんな人はいない。町内会長も引き受け手がいなくなってきた、将来が不安で、この集落も10年もすれば無くなってしまわないかと思ったりする。私もこれを見て、良い考えは浮かばない。

【松野委員】

構成要素ではないが、ここの地域がどうやったら生き延びていけるのか、どんな作物ができるのか。大学の先生やいろんな人たちに来てもらって、いろんな話し合いをする。NPO、町内会長、地域協議会などをメンバーにして、指導していただく。そのような中で皆さんのいくらかでも稼ぎに結び付く。

前から言っているが、年収6百万円あれば、なんとか生活ができていく。今、この地域に居て6百万円は稼げない。夢みたいな話になるが、それができてくると、いろんな人たちが来てくれるようになるかも知れない。柿崎に来ていた地域おこし協力隊に話を聞いたことがあるが、やはり年収は5百万円から6百万円と言っていた。5百万円から6百万円がどうかという話にもなるが、夢は大きく持ったほうが良い。

みんな歳をとっていく。今のままでは、安塚という地域が無くなってしまふ。雪の克服などできない。地域外の指導者の方を入れながら、新たなチームをつくるのが良いと思う。

【池田（正）委員】

要はこの地域に、そういう稼ごうとする人が増えなくてはいけない。

【松野委員】

そのためにはまず、基本を作りましょうということ。基本を作らなければ、5百万円などという金は稼げない。

【池田（正）委員】

地元には働いて稼ぐという人はいない。外部から来て、働いてもらわなければならない。

【松野委員】

そこが、これからの問題である。私たちはこの地域は荒廃地で、米しかできないと思っているが、本当にそうか。ここの地区なら違うものができるかも知れないと思う人が居るかも知れない。地域のグループがそこに一つになれば良い。いずれ田んぼもグループをつくらなければ駄目だと思う。

【池田（正）委員】

真剣にそばを作ったりしているが、なかなか…。

【新保副会長】

松野委員のおっしゃることは、非常に大切なことだと思う。大学の先生などを呼んでアドバイスをいただくことは良いと思う。この土地で単なる野菜などを作っても駄目だ。採算はとれないため、大学の先生などのアドバイスが必要である。

その前にまず、本当に大切なのは地域の支え合いである。これがなければ、何をやっても駄目だと思う。先ほど、池田（正）委員から町内会の解散という話があったが、解散したらどうなるのか。行政との連絡はどうなるのか。

【池田（正）委員】

市は、そこに人が住んでいる限り除雪をしない、道路の修繕をしないとは言わないと思う。

ただ、広報や市からの配布物が来た時に、受け取る人がいない。どこか一か所においてくれば、80歳になっても取りに行くが、NPOや社会福祉協議会などの会費の集金や払い込みができなくなる。町内会長を通じて行っていた要望も個人でやるしかない。

【松野委員】

それは分かるが、例えば市道で法面が崩れた場合、誰のところに相談に行くのか。復旧の仕事が決まった業者は、誰のところにいくのか。責任者がいないと困る。

【新保副会長】

だから、そこを私は言いたい。地域の支え合い、例えば伏野で町内会が無くなってしまえば、災害があった時に誰が窓口になってくれるか決めることが必要になる。地域の支え合いだから、伏野だけではなくて、例えば他地域との合併も考えては。

【池田（正）委員】

以前は真萩平と一緒にあって、おぎの町内会になっていたが、分かれてしまった。

一つになっていけば、伏野に人材が居なくなっても良かったかと思っただが、分かれました。

【中村委員】

町内会は確かにあったほうが良いに決まっている。しかし、現実問題としては、池田（正）委員が言われるように担い手が居なくて、町内会をやめるかどうか、やめた時にどうしたら良いかなどを、ちゃんと考えていかないといけない。

朴の木も、私に町内会長が回ってくるくらいに次が居ない。隣の菅沼も、一番、若い人に順番が回ってきて、多分、次の人が居ない状況だと思う。僕らの世代が、だいぶ高齢になってもやることになるだろうと思う。その時に周りに誰も居なかったら立ち行かない訳で、町内会をやめるどころか、人がいない話を考えていかなければならない。奥の集落に行けば行くほど、そのような話が現実になってきている。今、考えている地域活性化の方向性の前向きな話とは別に、そのような後ろ向きの議論もしなければならぬ。地域協議会として話すべきことかどうか分からないが、行政と一緒にそのようなこともしていかなければならないかと切実に思う。なので、町内会をやめてはいけないというのは簡単であるが、そういうことはちゃんと考えていかなければならないと思う。

【新保副会長】

これは大切な話だと思う。

【吉野会長】

いろいろ聞いていると深刻だが、コミュニティとして成り立たなくなっている訳で、ではどうするかという話になるとやめればいいのか、それよりも何かほかに手は無いのか、今まで集落で持っていたものであっても、とても面倒を見切れないから捨てるものは何か、残していくものは何かというところから仕分けしていかざるを得ない。そんなことを考えると、段々とネガティブになるが、人を増やすためにはどうするかということを考えるのは、私としては現実的じゃないだろうと思っている。どれだけ人が減り、インフラが減っても何とか安心して住める、持続可能な安塚区にするにはどうするか、そういうところから考えて、人は減っていくものだとすることを前提にして、その中でどうしたら生き延びられるのかという考え方をしたほうが良いのではないかと。

例えば施設をどうするか。今年、柿崎と板倉に予算がついて、市長が高齢者も子ども

ももみんな集まれる場所を造りましょうということになっているが、安塚もいずれ、順番が来て予算がつくかも知れない。その時に、それは良いけれど、移動手段はどうするかなどという話になる訳なので、あまり消極的になることもないのかなと思っている。

ネックになるのは雪だ。この前のアンケートの記述部分を読むと、雪が本当に重荷になっているのは確かだ。雪を生かすといってもなかなか考えられないが、ある意味、それがうまく強みとして、資源として利用できるのであれば、どのような方法があるのかとか、なんとか安塚が生き残っていくと、持続可能性がある地域にするにはどうするかと考えたほうが良いと私は思っている。

農業も歳をとってできなくなっている。あまり外部に目を向けるのではなく、地域内で完結する還流型の経済システムをどうつくるか考えたほうが良い気がする。

それから、この前のアンケートで人が出ていく理由の非常に大きな要素になっているのが、働く場所がない、稼ぐ場所がないことだった。そこは市とどのように話し合っていけば良いかと思う。

このようなことも考え方として出てくるのだから、あまり悲観的にならないで、人が減っていくのは当たり前なのだという前提で、その中でどうするかを考えていったらどうかと、私は思っている。

【新保副会長】

働く場所、企業誘致などは地域協議会の問題ではなく、もっと上の話である。

【松野委員】

ただ、こうやって構成要素が出てくると、行きつくところはそのようなところだと思う。それをどうやって組み合わせていくか。そこが非常に問題だ。だから組み合わせを考えて投資をする。それに対して議員さんとかNPOとか農協さんなどに声掛けをしながら、どうしていくのかだと思う。

何で夢みたいな話をしているかと言うと、例えば田んぼができなくても、家の周りで畑をやっている人は多いので、そういった人たちに野菜の集荷などで声を掛けてやるとか、1か月に千円なり2千円なりの収入が得られるようにすることも、活性化の一つだと思っている。人口も減り、荒廃地がどんどん増えている。地域協議会の話ではなくて、もっと上の話かも知れないが、そこまで持って行かなくても、地域協議会で何か良い方策を考えていった方が良いという気がしている。

【吉野会長】

その意味で地域協議会は唯一、条例上で、協議をした課題について改善策を市長宛てに進言できる、意見具申できる位置づけになっているので、正に地域協議会がその窓口にならなければならないと思う。あまり、こうやったら良い、ああやったら良いと考えてやっていくよりも、町内会長協議会やNPOなどと少しずつ話をしたらよい。地域協議会は元々、実行権限を持たない団体なのだから、実行力のある団体との役割分担をしながら、いろいろ考えていく。ある意味、そうした団体に我々の課題の議論を示して、やってくれないかというような形になるのが良いかと思っている。

地域独自の予算事業は3割の持ち出しが出るので、金を持っている団体でないとなかなか取り組めない。この事業は、地域活動支援事業の形式が組み入れられた形に変わりそうだと聞く。地域政策課に地域自治プロジェクトはどうなったか聞いてみたが、議会への配慮か、なかなか情報は出てこない。もう少し情報を集めたいと思っている。新しい地域自治制度については、6月か7月くらいから地域政策課が地域協議会に説明に入るようだ。なんとか、地域協議会の中で将来に向けて基本的なコンセプトを共有しないと、町内会長さんやNPOさんと話す時にもなかなか上手くいかないと思うがどうか。

【松野委員】

コンセプトは、ここに書いてあるとおりではないか。

【吉野会長】

だから、その前提をどうするかだ。人口が減っていくのを前提とするか、それとも若い人たちを迎え入れるのを積極的に考えるか。若い人を迎えるのは多分、現実的ではないと思っている。ちなみに令和7年度、安塚区の出生数はゼロである。このままいけば小学校も無くなってしまう。深刻な話ばかりだが次回以降、もう少し議論をして、皆さんと共有する中で、町内会長さんやNPOさんとの会合を重ねていきたい。その方向で皆さんも考えていただきたい。手の打ちようがなくなってからやっている訳で、無理は承知である。

【松野委員】

今、自分がここに住んでいて、どのようなやり方、あり方がいいのかを考えて来いということか。新たに人が来るという考えは、しない方が良い。それは無理な話である。ただそうしてやっていくと、段々と人が増えていくかも知れない。

【吉野会長】

そうだ。関係人口をどう増やすかだ。

【松野委員】

今の段階では誰も来ないが、地元の人が楽しみながら生活できて良いとなれば、外から見た時にあそこは良いね、という話になるかも知れない。そのためにどうあるべきかを考えると、非常に難しい話になる。

【吉野会長】

なかなか難しいが、今回は今よりももう少し、一步先の話ができるよう、皆さんから考えてきていただきたい。それで、何とか考え方を共有する中で、それを一つのネタにして、町内会長さんやNPOさんや他の団体との話を進めてはいかがか。

他に発言がなければ、『(1) 自主的審議事項について』はこれで終了する。

次に、次第4：その他に移る。

次回の地域協議会の開催日を決定する。

来月の第3火曜日は5月19日（火）である。ご都合はいかがか。

（一同、了承）

それでは、次回の地域協議会は5月19日（火）午後6時30分から開催する。

次に、事務局から連絡事項があればお願いしたい。

【井部次長】

今後の行事予定についてお知らせする。

（翌日から5月末日頃までの、確定している事業及び会合等について情報提供。）

【吉野会長】

以上で第1回安塚区地域協議会を終了する。

9 問合せ先

安塚区総合事務所総務・地域振興グループ TEL：025-592-2003（内線23）

E-mail：yasuzuka-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せて御覧ください。